城と史蹟を歩く会　平成１４年９月８日（日曜日＝予備日は１４日）

第１５回　「古河城と小山城を歩く」予告編

往路＝八幡宿７時０７分（京葉快速前の方乗車）東京５１分着、山手線、
　　上野８時５４分（⑤番線東北本線）小山１０時０８分着
移動＝小山１３時３７または５１分（３駅１４分戻る）古河
復路＝古河１６時３０分ころ発、上野、東京、八幡宿１９時ころ着

主なコースと見所　乗車券ポリデーパス２０４０円

①日光街道＝５街道の１つで江戸から日光に至る。将軍の日光参詣路。秀忠、家光ら歴代将軍の参拝が19回。供18万人、幕府経費18万両の一大パレートを繰り広げた。宇都宮まで奥州街道を兼ね東北諸大名の参勤路でも。
②小山宿＝宿場町。思川舟運河港として発展。町並みに宿場町の面影が残る。
③若松脇本陣＝日光代参、参勤交代の大名宿舎兼休憩所。明治天皇も東北巡行のとき立ち寄る。格式を感じさせる唐破風玄関などが現存。
④須賀神社＝関が原の合戦のとき、東軍徳川家康、秀忠以下打ち揃って戦勝祈願。徳川軍勝利で社領51石を寄進。日光東照宮を模した朱神輿も。
⑤小山評定、小山御殿跡＝慶長５年、上杉景勝討伐のため徳川家康が布陣。石田三成の挙兵を知った家康は東軍諸将を集めて歴史的軍議を開く。福島正則、池田輝政、細川忠興、黒田長政、山内一豊ら出席。一転関が原をめざす。
⑥小山城＝伝平安末期小山氏構築。北条氏の支城だが秀吉の小田原征伐で滅亡。江戸はじめ元和５年まで家康の腹臣・本多正純３万５千石居城。
⑦城山公園（城址市立公園）思川の急崖を背負った後堅固の城。深い空堀、土塁、物見、横矢、水の手、船溜など旧状を良くしている。
＝昼食＝古河駅へ移動
⑧古河宿＝小山と同じ日光街道の宿場で土井８万石城下町。
⑨福法寺＝山門は古河城３の丸乾門の移築。冠木門形式。唯一の現存建造物。
⑩茶屋口門跡＝街道から引込みの門。城下町らしいクランクが残る。
⑪鷹見泉石記念館＝家老鷹見家の隠居屋敷で水戸天狗党ゆかり。泉石は首席老中土井利位の懐刀。長屋門、玄関、式台、座敷など茅葺き現存建物を一周。
⑫諏訪郭＝古河城址数少ない遺構。残念ながら水濠は現代風にアレンジされたが地形は当時のまま。周辺土塁が現存、横矢の屈曲もみられる。
＝以下、天候などにより一部を省略することがあります
⑬市立歴史博物館＝古河の歴史資料を展示。入館する場合は団体３００円。
⑭古河城址＝中世小田原北条氏支城。家康の関東入府後、小笠原、永井氏などをへて大老土井利勝が大改修。日光街道要衝の地として歴代城主に幕府要職者を配した。維新後城地は荒廃、渡良瀬川の改修工事で河川敷に埋没した。
⑮百間濠跡、御成道跡＝埋め立てられて今は住宅地。
⑯正定寺＝土井利勝が開いた浄土宗の寺。利勝以下累代の墓、江戸下屋敷移築黒門、大老堀田正俊寄進、春日局が家光から拝領した開運弁才天。
⑰[redacted]谷寺、⑱旧武家屋敷、⑲隆岩寺、⑳日光街道道標
問い合わせ先＝城と史蹟を歩く会　山岸０４３６－４２－２２３７

↑小山評定跡　↓戦勝祈願の須賀神社

↑市立歴史博物館

↑土井利勝の墓　↓古河城址

↑小山城址（城山公園）

妙運寺→

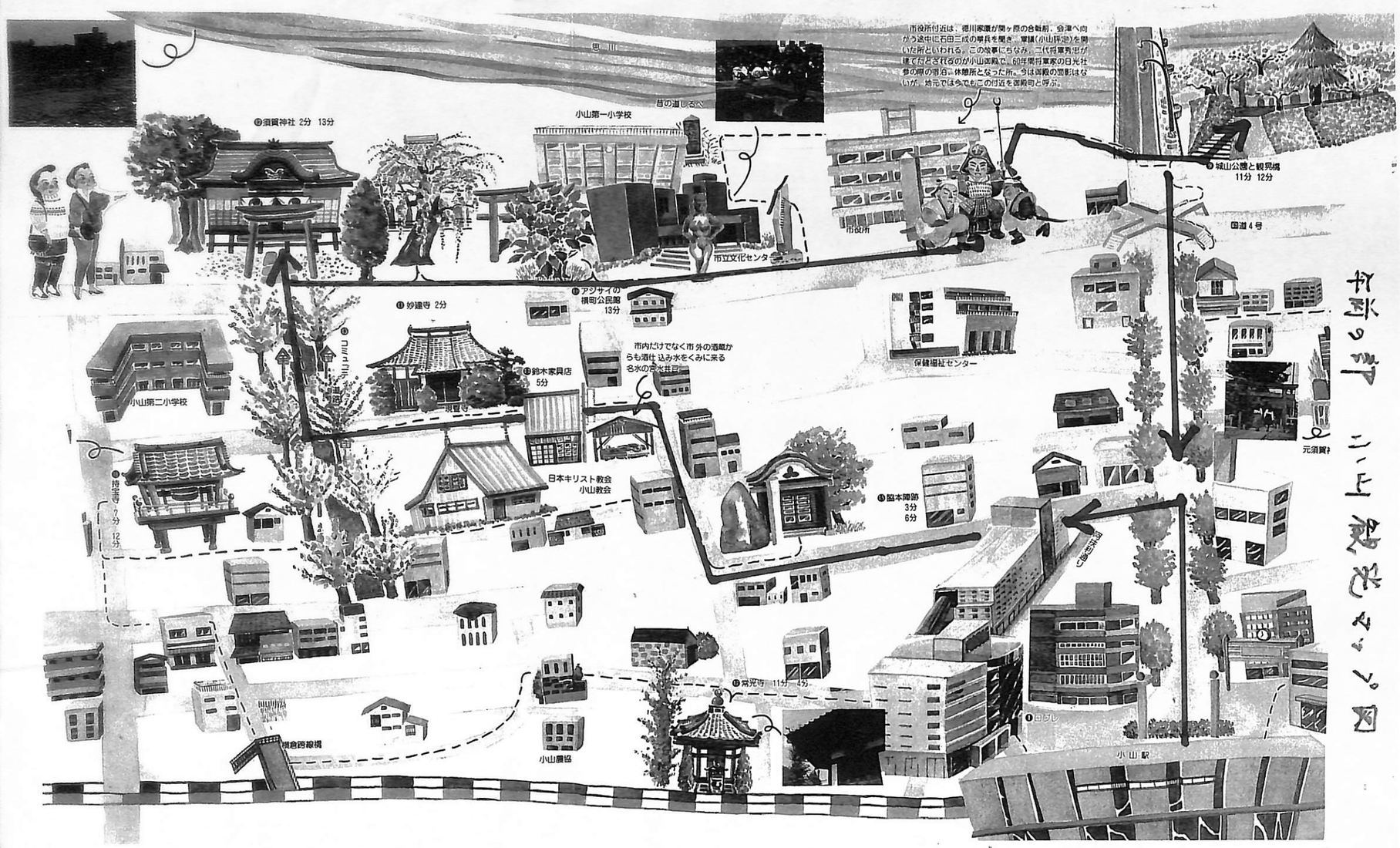
↓脇本陣

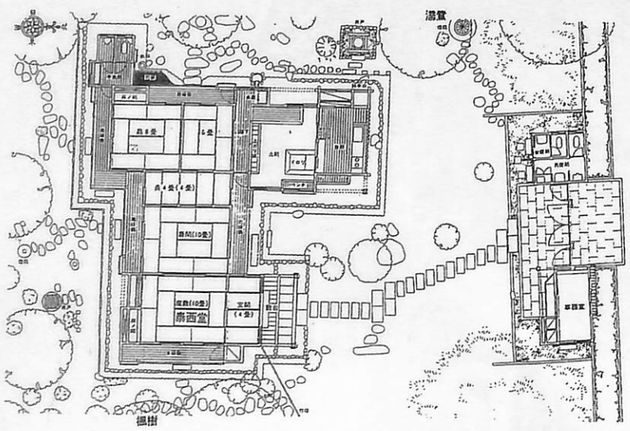
↑鷹見泉石記念館

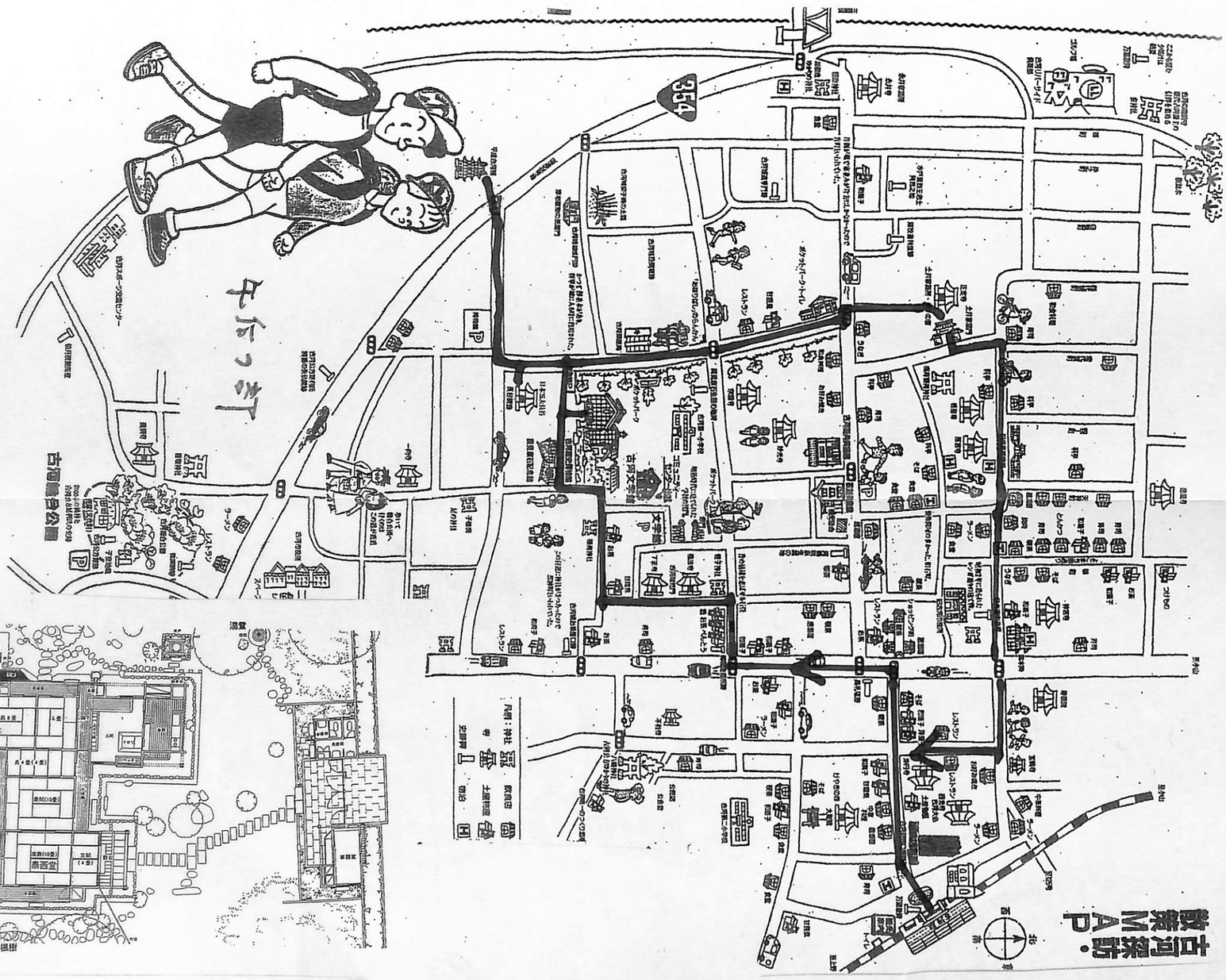
諏訪郭の土塁と水濠→

葵 徳川三代

小山本陣。上座の家康が、居並ぶ豊臣系の大名たちに向かって言う。
「そもそも弓矢をとる者の習いとして、今日の味方が明日の敵となるは珍しからぬ仕儀。したがって諸公が三成に加勢なされても、家康、少しも恨み申さず。家康が勝利を得て、再びまみゆることあらば、これまでの誼を決して忘れ申さず。お望みとあらば即刻、小山を引き揚げ、大坂へ戻られよ。行路の御無事はこの家康が保証つかまつる」
ぬっと中腰の正則が、声を上げる。
「内府殿の御存念を問い申す。豊臣家御奉公のお志に、異変ありやなきや」
「露ほどの異変もござ候らわず」
「しからば、正則の身上、内府殿にお預け申し上げなん」
「よくぞ仰せられた」
家康、ぎょろりと大名たちを見回して。京極高知が「異存ござらず」。加藤嘉明が「同心つかまつる」。浅野幸長、細川忠興が「同じく――」。池田輝政、藤堂高虎が「承知つかまつった」。田中吉政が「右に同じく――」と頷き合う。
山内一豊は「合戦のみぎりは、掛川城をお預けいたさん」。正則は、
「それがしも清洲城を明け渡す」。吉政は「岡崎城も――」


思川
昔の道しるべ
市役所付近は、徳川家康が関ヶ原の合戦前、会津へ向かう途中に石田三成の挙兵を聞き、軍議（小山評定）を開いた所といわれる。この故事にちなみ、二代将軍秀忠が建てたとされるのが小山御殿で、60年間将軍家の日光社参の際の宿泊・休憩所となった所。今は御殿の面影はないが、地元では今でもこの付近を御殿町と呼ぶ。
❸須賀神社 2分 13分
小山第一小学校
❺城山公園と観覧塔
11分 12分
市役所
国道4号
市立文化センター
❶妙建寺 2分
❷アジサイの横町公民館
13分
❹鈴木家具店
5分
市内だけでなく市外の酒蔵からも酒仕込み水をくみに来る名水の井戸
保健福祉センター
小山第二小学校
日本キリスト教会
小山教会
❻盥本神節
3分
6分
❼持宝寺 7分 12分
❽常光寺 11分 4分
❾ロブレ
横倉西線橋
小山農協
小山駅


展示室
講堂
温室


古河文学館
古河総合公園
古河駅
JR古河駅
東武古河駅
北
東
南
西

城と史蹟を歩く会第１５回　「古河城と小山城を歩く」ご案内資料

＜日時＞	平成１４年９月８日（日曜日＝予備日は１４日）
＜主要行程＞	八幡宿７時０７分（京葉快速前の方乗車）東京５１分着開会式、山手線、上野（⑤番線東北本線）８時５４分（先頭車両乗車）小山１０時０８分着 ― 小山宿 ― 脇本陣 ― 須賀神社 ― 小山評定跡 ― 小山城 ― 小山１３時３７または５１分（１４分）古河 ― 古河宿 ― 鷹見泉石記念館 ― 諏訪郭 ― 古河城址 ― 正定寺 ― 古河１６時３０分ころ発、上野、山手線、東京、八幡宿１９時ころ着

山岸　弘明

1）　**はじめに（地名のいわれ）**

①小山＝平安時代からの郷名。思川近くのおおむね平らな台地（小山）。地形に由来か。
②古河＝未開地を意味する空閑（くが）の転訛。

2）　**日光街道と小山宿**

①日光街道＝江戸時代５街道の１つ。江戸から日光に至る。この間、草加、越谷、古河、小山、宇都宮など24宿、うち千住～宇都宮間は奥州街道を兼ねた。歴代将軍が日光東照宮参拝に使った御成街道で、元和３年徳川家康の遺骸を久能山から日光へ移葬したときの通路でもある。
②将軍の日光参詣＝通算19回。うち家光が10回、天保14年の家慶参拝は供18万人、幕府経費18万両の大パレード。街道機能は完全にマヒした。
③小山宿＝日光街道の要衝。宿場町。思川船運の河港として発達。
江戸後期、宿村（小山宿）大概帳＝宇都宮戸田山城守領分。南北12町13間、総人口１,392人（うち男６36人、女７56人＝女が多い）家数４23軒、本陣１、脇本陣２、問屋場１、旅籠74、木賃宿ほか
④札の辻＝要路に置かれた公設の掲示板。掟、通達の徹底などが目的。

3）　**若松脇本陣**

①本陣＝大名、旗本、公家など公務出張者の宿泊、休憩用旅館。大名行列は１00名～数千人。日光参詣、参勤交代の大名宿泊で賑わった。
②若松脇本陣＝格式を感じさせる唐破風玄関、式台。かつて上段の間、書院、庭園など大名屋敷に準じた。明治以降取り壊され現存は珍しい。当時は若松氏、現在は高橋氏の住居になっている。
③明治はじめ、明治天皇が日光、東北巡行のとき休息。

↑旧日光街道

↑脇本陣

←小山宿

4）　**須賀神社**

①関が原の合戦東軍戦勝祈願の地＝小山評定で石田三成ら西軍との決戦を決めた徳川家康、秀忠以下諸将、打ち揃って戦勝を誓う。家康、社領51石を寄せる。寄進状が現存。
②拝殿＝屋根入母屋造り、唐破風向拝。江戸後期建造。本殿は後代の建造で権現造りとはいえない。
③朱みこし、旧石鳥居、泣き石、旧別当寺山門。新国道４号線が境内を２分

5）　**妙建寺**

①日蓮宗。本堂は享保２年建立。堂内天蓋に龍、格天井に百人一首55枚。
②手水石は小山宿遊女らが寄進。珍しい。

6）　**小山評定跡、小山御殿跡（小山市役所）**

①上杉討伐＝慶長３年豊臣秀吉が死ぬと、後継政権をめぐる政争は激化したが、それは力をつけた徳川家康と阻止しようとする石田三成の対立に絞られていく。慶長５年、蟄居謹慎中の三成と通じた？上杉景勝が上洛もせず軍備を整えていることを咎めた家康が景勝討伐の軍を起こす。これは留守中三成の挙兵を計算にいれた挑発でもあった。はたせるかな三成は反家康の西軍を結集、関が原の合戦の火蓋が切られた。
②家康の上杉討伐軍　合計10万人
前軍＝秀忠率いる徳川軍
後軍＝家康率いる豊臣恩顧武断派大名。福島正則、池田輝政、細川忠興、黒田長政、京極高知、山内一豊ら　　奥羽勢＝伊達政宗、最上義光ら
③慶長５年７月21日、上杉討伐軍江戸出発。24日前軍宇都宮、後軍小山着陣
小山は思川船運の最上流。兵糧、武器輸送など会津攻略の最前線基地にとしての立地に恵まれる。
④小山本陣（家康仮御殿）＝３間四方仮御殿。周辺に野営の諸大名陣屋数十が作られ戦機みなぎる。
⑤小山評定＝７月25日、三成挙兵を知った家康が仮本陣に諸大名を集めて軍議。福島正則が協力を誓い、諸大名もこれに倣う。８月２日大阪めざしてＵターン
⑥関が原の合戦とその後
９月15日、延着した秀忠徳川軍を除く東軍８万、三成西軍10万が小雨降る関が原で激突。家康勝利
慶長８年、家康、江戸に幕府開く
元和元年、大阪夏の陣、大阪城落城。正則の危惧した豊臣氏滅亡
元和５年、正則、広島城修築を口実に改易
⑦小山御殿（小山市役所）
元和８年、秀忠が小山評定の吉例に因んで跡地に日光東照宮参詣の宿泊御殿建造。
東西１00間、南北50間、３面に空堀を巡らせ背後は渡良瀬川。上段の間など。
秀忠、家光、家綱３将軍が６回宿泊。天和２年、幕府財政難のため廃止

NHK大河ドラマから

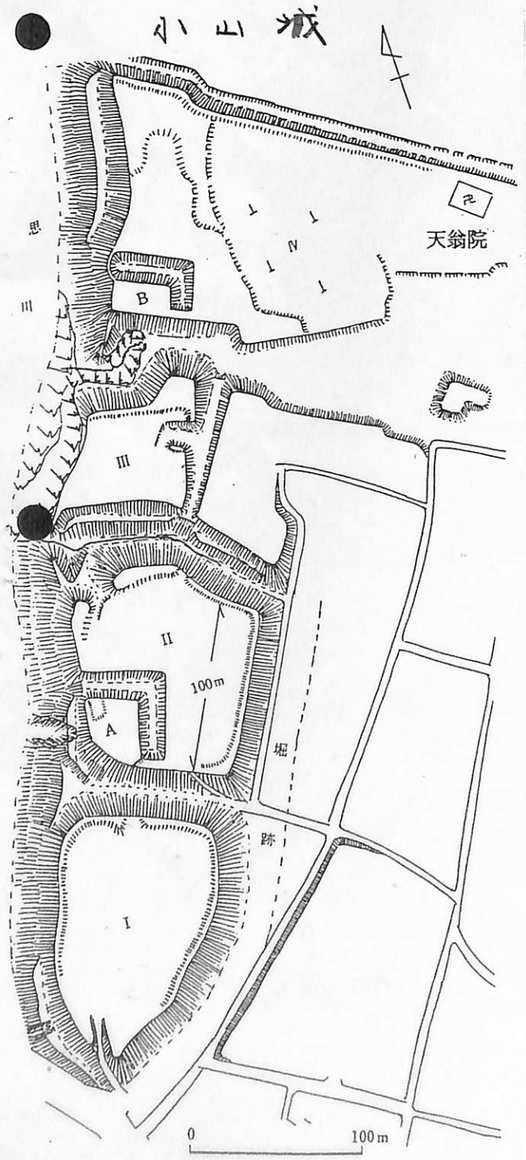
↑小山評定跡

家康→と福島正則↑
小山市役所↓

↓須賀神社

7）　**小山城（市立城山公園）（昼食＝５０分の予定）**

①伝平安末期小山政光築城。中世小山氏居城。源　頼朝の挙兵に協力、戦国時代は小田原北条氏支城となるが豊臣秀吉の関東攻めで滅亡した。
②天正18年から元和５年まで本多正純居城。正純は家康の腹臣として大阪冬の陣後の濠取壊しを指揮、大御所政治でも敏腕を発揮して小山から宇都宮15万石に栄進するが釣天井事件で失脚した。
③小山城縄張り図参照＝中世の城は郭名がわからないので便宜上Ⅰ郭（主郭＝本丸相当）、Ⅱ郭（２の丸相当）、Ⅲ郭、Ⅳ郭などと標記することが多い。
④前面を空堀（現存しない）、後面に思川の急崖を背負った後堅固の城。地形を巧みに利用した丘城。関東地方特有の石垣、天守閣のない土の城。空堀、土塁、水の手、船溜など旧状を良く残している。
⑤Ⅰ郭＝本丸説は疑問。公園入口の石垣、道路は後世のものだろう。北側に空堀、土塁。
⑥空堀＝郭を空堀で分ける。深くみごと。版築？舟型？削土は土塁に掻き上げ、後は押し出す。橋は木橋。ひき橋、そろばん橋、はね橋が考えられる。
⑦Ⅱ郭Ａ＝案内板は馬出しだが虎口の防御施設にはみれない。高さ、堅固さなど本丸では？建造物は発掘しないとわからない。土橋。本丸橋（後世）の名は混乱のあらわれ。
⑧Ⅱ郭＝Ａを本丸とすると２の丸。横矢、物見、水の手への小道。
⑨空堀の水の手。城主家族、城兵の飲料水。
⑩Ⅲ郭＝物見、横矢、虎口。
⑪舟溜＝河城の特徴。河港から船での兵力移動、物資輸送、脱出口。河からの攻撃を防ぐ升形。
⑫Ⅳ郭＝広い郭。千人溜、千畳敷、太鼓郭などとも呼ばれる兵の集合地点か。
⑬大（追）手門＝東北側前面に意味不明の土塁などが現存している。大手門はこのあたりか？



本多正純（ほんだまさずみ）

永録八年（一五六五）～寛永十四年（一六三七）

正信の長男で、幼名を千穂、弥八郎といった。少年の頃から家康に仕え、かわいがられていたという。正純が頭角を現すのは関ヶ原の戦いあたりからで、翌年には上野介（こうずけのすけ）に叙任されている。特に、駿府（すんぷ）と江戸の二元政治になると、家康の側近筆頭として、才腕を振うことになる。主に外様大名への対応、外交関係では多くの成果を上げている。正純は知略も父に劣らなかったが、辛辣でもあり、江戸側近たちとはしばしば対立した。正信はよく正純に、「領地は三万石以上はのぞんではならない」と諭していたという。正信は寡欲（かよく）な人であったが、正純はさばけており、父はそれを心配したようである。その危惧はあたり、正純は宇都宮十五万石の城主となるが、将軍の日光参拝のおり、気を配ってしたことがすべて仇（あだ）になり、領地を召し上げられて横手に流され、その地で病没する。権力争いに負けた結果ではあるが、知略に富むがゆえに、人望を得られなかった悲劇の人であった。

8）　**移動＝小山駅まで徒歩１２分**

小山１３時３７分（快速１駅）古河１３時４８分着
〃　１３時５１分（各駅３駅）〃　１４時０５分着

9）　**古河宿**

①日光街道の宿場町。土井８万石城下町
②本陣跡、問屋場跡、高札場跡
③御馳走番所跡

１０）**福法寺**

①山門は古河城３の丸乾門の移築。冠木門形式。唯一の現存建造物。

１１）**茶屋口門跡**

①街道から引込みの虎口。したがって大手門ではない。
②鍵型道路（クランク）は敵が一気に攻撃を仕掛けられない仕組み。五井、久留里などの城下町に見られる。

１２）**諏訪郭（古河第１小学校の一部、市立歴史博物館）**

①古河城址数少ない遺構。出城。３千石城代家老土井内蔵充邸が置かれた。
日光参詣の将軍は諏訪郭から御成橋、御成御門をへて本丸の御成御殿に向かった。
②土塁＝当時の現存。横矢の屈曲もみられる。
③水濠＝残念ながら現代風にアレンジ。なぜこんなことをしたのだろうか。文化度は市原と同じ？

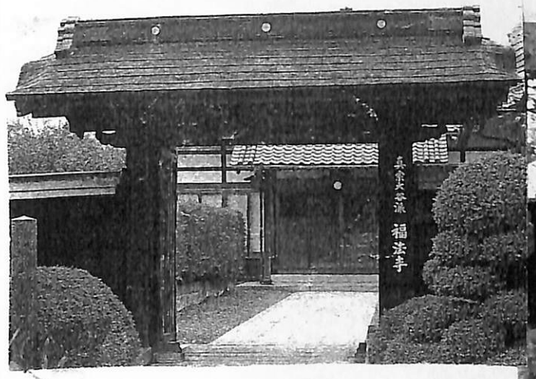
１３）**鷹見泉石記念館（家老屋敷）（無料）**

①鷹見泉石＝第11代藩主で首席老中にすすんだ土井利位に仕えて政治手腕を発揮した家老。大塩平八郎事件の鎮圧で有名。渡辺華山らと交際して開港論を主張したので古河への蟄居を命じられた。
②元治元年、水戸天狗党の乱で幕府に投降した１00名余を収容。
③鷹見家旧住居。現存家老屋敷。敷地面積３45坪、茅葺き平屋44坪。
長屋門、玄関、式台、座敷、縁側、土間、台所など、庭を巡りながら見学。
④石灯籠ぬれ鷺は旧２の丸御殿庭園にあったもの。明治維新の時売却されて商家に置かれた。

以下、天候などによりコース内容を省略、変更することがあります

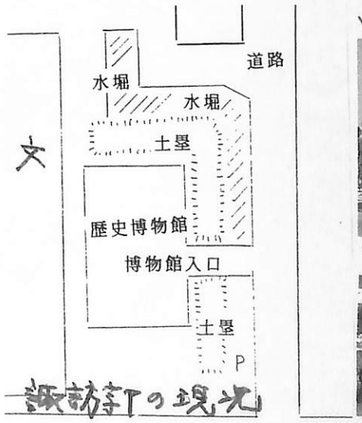
１４）**市立歴史博物館**　（入館する場合は団体３００円）

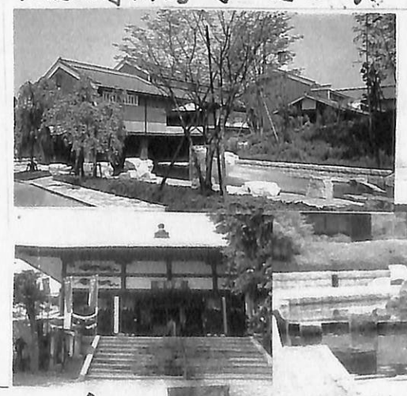
①古河の歴史史料を展示する博物館。原始古代から現在にいたる古河の歴史を紹介。見所は古河城模型、歴代城主ゆかり品など。中世の古河公方は市原に居城した小弓公方足利義明の生家。両子孫が豊臣秀吉の計らいで復縁、喜連川１万石で明治維新におよんだことなどがわかる。



福法寺旧3の丸乾門　↗家老屋敷長屋門

↓歴史博物館　↘土塁と濠





百間堀跡（道路）

長谷観音

１５）**長谷観音**

①15世紀明応２年古河公方足利成氏が古河城の鬼門よけとして創建。歴代城主が信仰、土井家祈願寺。

②本尊十一面観世音菩薩像は背丈２ｍ余、日本３大長谷観音の１つ。

１６）**古河城跡**　（遠望）

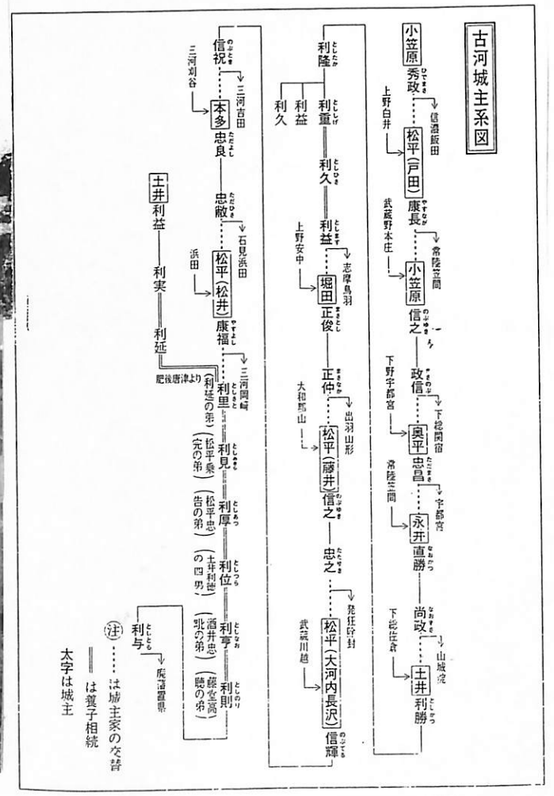
①鎌倉はじめ小山氏の一族下河辺氏築城という。鎌倉公方足利成氏が鎌倉を追われたが古河に移って古河公方として上杉氏に対抗した。古河市総合公園の公方館跡はもっとも輝いた時代の古河城だが、５代義氏のとき小田原北条氏の配下となり、天正18年の小田原攻略で落城した。

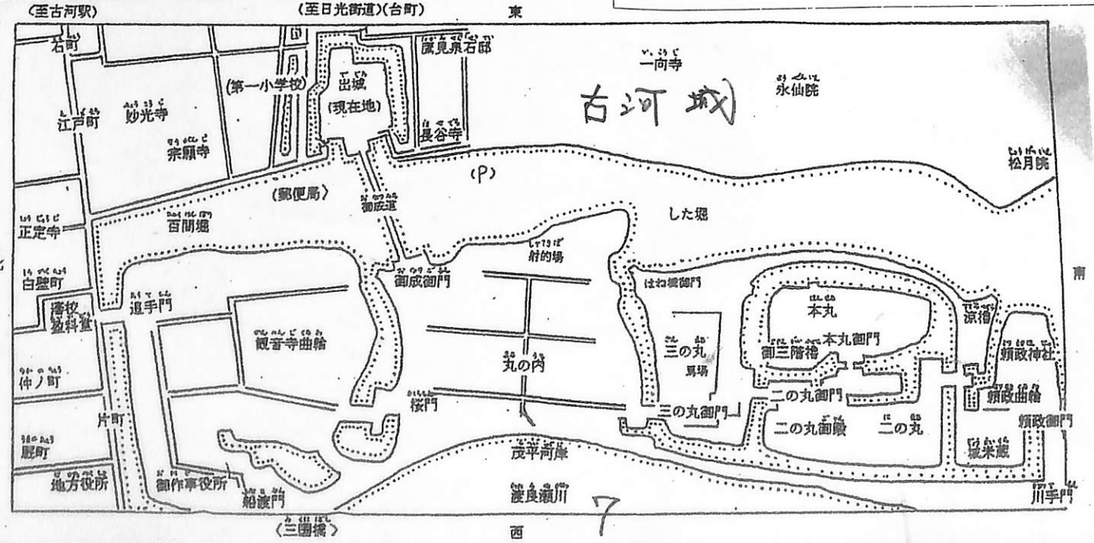
②家康の江戸入府後、小笠原、戸田、奥平をへて、寛永10年佐倉から土井利勝が16万石で移封された。利勝は徳川家康の落胤であることがほぼ解明されている。秀忠、家光３代に仕え大老職として幕制確立に貢献した。古河城を大改修、本丸三階櫓（天守閣相当）、巽櫓などを造営した。
以後、日光街道要衝地として歴代城主に幕府要職者を配して明治維新に及んだ。

③御三階櫓＝関東では江戸と小田原を例外として城に天守閣は存在しない。水戸、川越、佐倉もすべて三階櫓。石垣も飾破風もない質素な造りだが、徳川直参としての誇りがみなぎっている。

古写真→

↓古河城址





←正定寺　↑江戸屋敷移築門

土井利勝（正定寺蔵）

土井利勝　【下総国古河城主】

天正元年（一五七三）～正保元年（一六四四）

土井利勝には、当時から家康の落胤説がある。真偽の程はいまだに不明であるが、それだけ近い関係であったと思われる。家康の寵愛も深く、三代に渡って重きをなす。秀忠が幼少のころから側近として仕え、慶長七年（一六〇二）には一万石、同十五年には年寄衆となり、佐倉に三万二千石、寛永三年（一六二六）には従四位に昇進し、下総古河で十六万石を賜る。異例の出世ぶりであり、いかに利勝が重宝されていたかを物語る。秀忠の元で酒井忠世と共に幕政を遂行、家光時代にも重く用いられ、大老にまでなる。崇伝が利勝を評し「今はだれもかれも大炊殿に頼入体と相見へ申候」と記しているように、幕閣での地位と実力は群を抜いていた。秀忠親政期には、その懐刀として、大いに才覚を発揮したのである。彼は、酒井忠世が比較的厳格な人であったのに対し、人情の機微もわかる人物であった。そのため、忠世が失脚した後にも、家光に疎まれることなく、政権にとどまることになる。

←土井利勝の墓

↑武家屋敷

④古河城址＝明治４年城内に古河県庁を置くが同年印旛県に合併、７年三階櫓以下の建物を競売払い下げ取り壊す。廃城後城址は荒廃し、度重なる洪水で被害を受ける。43年夏の渡良瀬川、利根川大洪水を契機に昭和２年にかけて大改修工事が行なわれ城地のほとんどが河川敷の中に埋没した。

１７）**百間濠跡と御成道、古河城跡**　（遠望）

①百間濠跡＝諏訪郭から東、郵便局側の住宅地一帯は百間濠跡。道路を境にやや低地になっていることがわずかな名残。濠幅は60間から最大１02間、百間濠は誇張ではない。広々とした水濠が続いた。

②御成道跡、御成門跡（遠望）＝将軍が日光東照宮に御参りするとき、古河城に宿泊することは恒例になっていた。御成道は百間濠の真ん中に造られた将軍専用の土橋で、渡った所に御成門があった。将軍は本丸に造られた御成御殿に宿泊した。２00ｍ先にみえる小さな林付近が御成門跡、周辺に土塁、武家屋敷門が現存している。

１８）**正定寺**

①浄土宗。利勝山。土井利勝の創建。県の文化財利勝肖像画（見学はできない）

②土井家菩提寺。利勝の墓２基と側室で２代利隆の生母栄福院、13代利則夫妻、江戸から移葬した74霊合祀碑の計６基の宝きょう印塔がある。

③黒門＝江戸下屋敷表門の移築。利勝像。

④開運弁才天＝春日局が家光から拝領。養子で大老にすすんだ堀田正俊が寄進。

１９）**旧武家屋敷**

２０）**隆岩寺＝徳川家康の長男信康の墓**

２１）**日光街道道標**

古河１６時１７分（快速）上野１７時１０分着、東京４３分（総武快速）八幡宿１８時４１分
〃　１６時３４分（各駅）〃　１７時３５分着　八幡宿１９時ころ
〃　１６時４４分（〃　）〃　１７時４８分着　八幡宿１９時すぎ

次回第１６回＝１０月８日（火曜日）「生実と小弓、２つのおゆみ城を歩く」お楽しみに
問い合わせ先＝城と史蹟を歩く会　山岸０４３６－４２－２２３７